

# 患者様・ご家族の安全対策

当院では患者様・家族の皆様にもリスクマネジメントに参加していただいております。患者様・家族の皆様が安心して安全に受診され療養されますように、以下のように留意点について、まとめましたのでよくお読みください。

## 1. わからないことは、そのままにしないでできましょう。

### 質問事項をあらかじめ紙に書いておきましょう。

診断・検査・治療などでわからないことは、医師または看護師にお聞きください。質問をあらかじめ紙に書いておくとう便利です。医師に渡して下さっても結構です。医師は紙に書かれた質問事項を見ながら説明いたします。人体の構造や働きは非常に複雑です。疾患によっては写真・図・絵などがあり、それをお見せすることもあります。説明書に、わかりやすい図を書いて説明することもあります。

## 2. できれば二人以上で説明を聞きましょう。

入院中の医師からの説明は、できれば患者様お一人ではなくご家族といっしょにお聞きください。ご家族が別々の時間に来院され、それぞれが説明をお求めることはおひかえください。担当医からまとまった説明をお聞きになりたいときは、ご希望の日時を看護師にお話ください。担当医に連絡し、説明日時の予約(アポイントメント)をとります。

## 3. 意思表示は明確にしましょう。

輸血に関する希望、宗教的なこと、ドナーカード・人工呼吸器の使用など、意思表示がある場合は明確に表示してください。救命医療が最優先されます。その中で患者様ご自身の意思表示が明確かつ有効な場合は、そのご意見を尊重いたします。ご本人の意思表示が不明のときは、ご家族の希望をお聞きします。

## 4. セカンドオピニオンについて

入院中または退院後に「主治医の説明だけでなく、他病院の医師の意見もきいてみたい」ということがありましたら、主治医または看護師にお話ください。紹介状をお書きします。レントゲンフィルムの貸し出しも可能です。

## 5. 身内に医療関係者がいるとき

ご身内に医療関係者がいらっしゃるときに、遠慮して隠す必要はありません。ご身内の医療関係者の方が専門的な立場で質問・意見などをおっしゃってもかまいません。ご身内の方の病院に転院を希望される場合、ご遠慮なくそのようにお話ください。

## 6. かかりつけ医との協力、開放型病床の利用

かかりつけ医がいらっしゃれば、お教えください。今までの処方内容をお聞きすることもあります。かかりつけの先生と相談されて、開放型病床(オープンベッド)を利用することも可能です。

## 7. 患者様の氏名の誤認・点滴や投薬の誤り・左右の誤りを防ぐ。輸血の事故を防ぐ。

できるかぎりご自分から氏名を名乗ってください。点滴ボトルや内服薬などにご自分の名前が書いてあるかどうか、ご確認してください。手術前、ご家族の方はリストバンド・点滴ボトルの氏名などをご確認ください。輸血のときは、ご自分の血液型・氏名をできるかぎり確認してください。輸血の前後に体調不良などがあれば、医師・看護師にお話ください。

## 8. 転倒・転落などの危険防止

患者様の状態・疾患によっては、転倒・転落の危険が生じることもあります。危険が予想され付き添いなどご家族の協力をお願いすることがあります。また、必要に応じてベッドの工夫、薬剤の投与、抑制などの危険防止対策を、主治医または各診療科の責任者の責任において行います。

## 9. 医療従事者が集中して医療行為をしているときの注意

医療従事者が集中して医療行為を行っている時に、他の人から話しかけられると、医療行為が中断し、検査・治療を受けている患者様の危険が増してしまいます。このようなことについてご理解ください。

## 10. 病棟の特徴を知る

どこの病棟に入院しているのか、病棟の特徴をしっかりと把握してください。また、面会に来られる方にも病棟をお伝えください。初めての面会者が違う病棟にみえて、看護師がその患者様の病棟を探すことで、他の患者様のリスクが増加してしまいます。

## 11. 面会時間と面会者

面会時間は4西病棟を除き7時～21時までです。病棟は診察・検査・治療・処置・療養の場であり、ご面会は短時間をお願いします。同室の方・ロビーにいらっしゃる他の方にもご配慮をお願いします。患者様の診察・処置等の時は、ロビーでお待ちください。必要以外の方はご面会を遠慮してください。必要以外の面会の方が来院されますと、医療従事者は対応に時間をさかれ、結果として患者様のリスクが増加してしまいます。

## 12. 他科受診の希望

院内の他の診療科を受診したいときは、医師・看護師にお話してください。必要性や緊急性を考慮して、主治医が他科受診依頼を行います。退院後に他科受診していただくこともあります。

## 13. 不安がある、痛みがひどい、苦しいとき

遠慮なく医師・看護師にお話してください。できるかぎり対応します。ただし、投薬量には限度があること、病態によっては投薬できない場合があることをご理解ください。不安の内容によっては、他の医療機関を紹介させていただくこともあります。

## 14. 院内感染防止

医療従事者は院内の感染防止対策マニュアルにしたがって医療行為をしています。病院内にはいろいろな病原菌をお持ちの患者様も入院されています。重症患者様、抵抗力の弱い患者様は、感染しやすい状態になっています。咳のある方はマスクの使用をお願いします。マスクを用意していますので、玄関の総合案内、または初診窓口にお声をかけてください。病室によっては、手の消毒などご家族にも協力をお願いします。方法は看護師が説明します。乳児同伴での面会(赤ちゃんを連れてくること)は原則として控えてください。

## 15. 医療相談室 患者サポートセンター

医療相談室では、医療ソーシャルワーカー(MSW)が社会福祉制度、経済的な問題、他の医療機関の紹介などについて、相談援助を行います。入院および外来で「不明・不安・不満なことがあり、まず相談にのってほしい」ということがありましたら、医療相談室でお話しをうかがいます。「皆さまの声」の投函箱を院内各所に設置しております。病院・院長へご意見を投函してください。

## 16. 患者様皆様の安全確保

医療従事者は患者様皆様の安全確保を考えて対応しております。患者様・ご家族の方もご自身の安全に留意いただき、他の患者様にもご配慮をお願いいたします。

## 17. 携帯電話について

院内ではマナーモードにしてください。外来、待合場所の周りでの会話はご遠慮ください。会話される場合には周囲の方に、ご迷惑にならないように音や声の大きさにお気をつけください。病棟での会話は談話室のみです。できるだけメールをご利用ください。ICU・透析室・手術室での使用は出来ませんので、電源をオフにさせていただきます。

## 18. その他

病院に貴重品は持ち込みにならなでください。病院内で不審者を発見されましたら、病院職員にすぐにご連絡ください。医療従事者が患者様・ご家族の方から暴力・暴言・セクハラなどを受けることがあります。このような場合は、当院の規定により対処させていただきますので、ご承知おきください。